

平成26年度
学力向上アドバイザー派遣事業

学力向上実践事例集

-検証改善サイクルの確実な運用を目指して-

平成27年3月

栃木県教育委員会

はじめに

県教育委員会では、とちぎの子どもたちが未来に夢や希望を描き、それを実現できる力を培うことを目指して、平成23年3月に「とちぎ教育振興ビジョン(三期計画)」を策定し、「とちぎの子どもたちを 自らの力で 自分の未来を 力強く切り拓いて いける人間に育てます」の基本理念の下、確かな学力の育成のための諸施策を実施してきました。

このような中、平成26年度からはこれまでの取組を発展させた「とちぎっ子学力アッププロジェクト」を本格的に実施しています。本プロジェクトは、全員参加方式による「とちぎっ子学習状況調査」を要として、小・中学校9年間の学びの連続性を重視した本県独自の学力向上システムを構築し、児童生徒一人一人の学力向上に資することを目的としており、市町教育委員会の協力を得ながら各種事業を展開しています。

その事業の一つである、学力向上アドバイザー派遣事業は、学習指導及び組織マネジメント等について豊富な知識と経験を有する学力向上アドバイザーを全公立小・中学校に派遣し、とちぎっ子学習状況調査の効果的な活用や、学習指導における検証改善サイクルの構築・運用が促進されるよう各学校への支援を行うものです。平成26年度は、10名の学力向上アドバイザーを、県内公立小・中学校の約3分の1に当たる177校に派遣し、学力向上に向けた学校の主体的な取組への支援を行いました。

本資料は、学力向上アドバイザー派遣指定校で実践されている特色ある取組を広く県内に紹介することで、学校における学力向上に向けた取組の参考にしていただくことをねらいに作成しました。各学校の実情に応じて御活用ください。

最後に、本資料の作成に御協力いただいた学力向上アドバイザー派遣指定校及び関係市町教育委員会の皆様に深く感謝申し上げます。

平成27年3月

栃木県教育委員会事務局学校教育課長
宇梶 宏美

目 次

はじめに

I	資料の活用にあたって	p.1
II	1年間を見通した学力向上の取組例	p.2
III	実践事例	
1	校内体制の構築	p.4
・事例1	〔小学校〕 学力向上担当者を中心に、学力向上改善プランの具現化に学校全体で取り組んだ事例	
・事例2	〔小学校〕 授業研究会の持ち方の工夫に取り組んだ事例	
・事例3	〔小学校〕 学力向上のために校内学力向上委員会を立ち上げて、校内組織を機能させた事例	
・事例4	〔小学校〕 「授業づくり10か条」を設定し、分かりやすい授業づくりに取り組んだ事例	
・事例5	〔中学校〕 校長のリーダーシップの下、「授業力」の向上に取り組んだ事例	
2	調査結果の分析・プラン作成	p.9
・事例1	〔小学校〕 調査結果を学級ごとに分析し、学級の実態に即した取組を行った事例	
・事例2	〔小学校〕 ワークショップ形式の校内研修で学力向上改善プランの作成に取り組んだ事例	
・事例3	〔中学校〕 学力向上改善プランの中間評価を実施し、指導の改善に学校全体で取り組んだ事例	
3	児童生徒へのフィードバック	p.12
・事例1	〔小学校〕 「学力向上ファイル」を作成し、個人票やフォローアップシートの活用を図った事例	
・事例2	〔中学校〕 個人票やフォローアップシート、調査問題を活用しフィードバックの充実に取り組んだ事例	
4	授業改善	p.14
・事例1	〔小学校〕 独自の授業研究システムを構築し、授業改善に取り組んだ事例	
・事例2	〔小学校〕 研究授業を通して教員の協力体制を強め、授業研究会の活性化に取り組んだ事例	
・事例3	〔小学校〕 言語活動を通して、自ら学び、自分の考えを表現できる児童の育成に取り組んだ事例	
・事例4	〔小学校〕 ノート指導の充実に取り組んだ事例	
・事例5	〔中学校〕 「思考力・判断力・表現力」について重点的に指導する単元一覧を作成して取り組んだ事例	
・事例6	〔中学校〕 難易度の高い課題に挑戦しようとする意欲の向上に取り組んだ事例	
・事例7	〔中学校〕 生徒質問紙で課題のあった項目を意識し、授業改善に取り組んだ事例	
5	家庭との連携	p.21
・事例1	〔小学校〕 保護者への啓発資料などを工夫し、家庭学習の充実を図った事例	
・事例2	〔小学校〕 小・中学校が協力して資料を作成するなど、特色ある取組で家庭との連携を図った事例	
・事例3	〔小学校〕 家庭学習プロジェクトなどの取組により、家庭学習の習慣化を図った事例	
・事例4	〔中学校〕 自主学習ノートの指導に力を入れ、家庭学習の習慣化を図った事例	
IV	資料	p.25
・	調査結果分析シート	
・	原因追及チャート	

I 資料の活用にあたって

1 作成の目的

学力向上アドバイザー派遣指定校において実践されている特色ある事例を紹介することで、各学校が学力向上の検証改善サイクルの確実な構築・運用に取り組む際に役立てていただくことをねらいとして、本事例集を作成しました。

2 資料の構成

- (1) p.2、p.3には、各学校が計画的に学力向上の取組を実施できるよう、1年間を見通した学力向上の取組例を掲載しました。また、図の上下に各事例の表題とページ番号を掲載しました。
- (2) p.4～p.24には、学力向上の検証改善サイクルを構築・運用するために重要であると考えた五つの内容ごとに実践事例を掲載しました。
- (3) p.25、p.26には、学力向上アドバイザーが学校を訪問した際に活用した調査結果の分析資料を、参考として掲載しました。

3 資料の活用例

- (1) 学力向上の検証改善サイクルの構築や円滑な運用を図るための参考資料とします。
- (2) 学力向上に関する諸計画及び資料を作成する際の参考資料とします。
- (3) 学習指導改善のための参考資料とします。
- (4) 校内研修などで、教員の指導力向上を図るための参考資料とします。

4 活用する際の留意点

- (1) 教育目標の具現化のためには、検証改善サイクルを確実に構築・運用することが重要です。本資料は、学校が主体的に推進している学力向上の検証改善サイクルの構築・運用の取組を紹介していますので、ぜひ参考にしてください。
- (2) 本資料に掲載されている事例は、当該学校の実態に即した取組です。自校への導入に当たっては、各学校の児童生徒の実態や家庭・地域の実情に応じて取組を見直したり、新たな指導内容を追加したりするなど、必要に応じ自校化を図ってください。
- (3) 児童生徒の学力向上を図るためには、学習の基盤となる学級を学びに向かう集団となるよう指導する必要があります。本資料とともに、県教育委員会が作成した指導資料「学業指導の充実に向けて」（平成24年3月）、「学業指導の充実～子どもが意欲的に取り組む授業づくりを通して～」(平成26年3月)等を参考にしてください。
- (4) 本資料は、県教育委員会のホームページに掲載しています。学校及び関係機関においては、必要に応じてダウンロードして活用してください。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m04/tochigikko.html>

Ⅱ 1年間を見通した学力向上の取組例

中央の表の上段は、とちぎっ子学力アッププロジェクトの各事業に関わる取組例や文書の作成・提出時期等を示し、下段は、学力向上アドバイザー派遣指定校の取組例や文書の作成・提出時期等を示しています。

小学校の事例

1 校内体制の構築

- 1 学力向上担当者を中心に、学力向上改善プランの具現化に学校全体で取り組んだ事例 (p.4)
- 2 授業研究会の持ち方の工夫に取り組んだ事例 (p.5)
- 3 学力向上のために校内学力向上委員会を立ち上げて、校内組織を機能させた事例 (p.6)
- 4 「授業づくり10か条」を設定し、分かりやすい授業づくりに取り組んだ事例 (p.7)

2 調査結果の分析・プラン作成

- 1 調査結果を学級ごとに分析し、学級の実態に即した取組を行った事例 (p.9)
- 2 ワークショップ形式の校内研修で学力向上改善プランの作成に取り組んだ事例 (p.10)

3 児童生徒へのフィードバック

- 1 「学力向上ファイル」を作成し、個人票やフォローアップシートの活用を図った事例 (p.12)

(※)FUS=フォローアップシート

	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
学力向上の取組例	学力向上に関する計画決定		とちぎっ子学習状況調査 全国学力・学習状況調査	教師が調査問題を解くことにより出題の趣旨等を分析	調査問題を授業で活用できる単元の洗い出し		授業の中で調査問題を適宜活用	調査結果受領・担当が分析		個人票返却 FUS(※)配布	全教職員による結果分析	学力向上改善プラン作成	調査結果活用研修会		報告書受領	FUS実施状況確認	学力向上改善プラン提出	
学力向上アドバイザー派遣指定校の一般的な動き		訪問1回目日程調整			訪問1回目 1年間の訪問計画等打合せ		訪問2回目日程調整	アドバイザー活用計画書作成			アドバイザー活用計画書提出		訪問3・4回目日程調整	訪問2回目 調査結果分析・改善プランの検討			訪問3回目 プランに基づく学力向上推進について協議	

中学校の事例

1 校内体制の構築

- 5 校長のリーダーシップの下、「授業力」の向上に取り組んだ事例 (p.8)

2 調査結果の分析・プラン作成

- 3 学力向上改善プランの中間評価を実施し、指導の改善に学校全体で取り組んだ事例 (p.11)

3 児童生徒へのフィードバック

- 2 個人票やフォローアップシート、調査問題を活用しフィードバックの充実に取り組んだ事例 (p.13)

4 授業改善

1 独自の授業研究システムを構築し、授業改善に取り組んだ事例 (p.14)

2 研究授業を通して教員の協力体制を強め、授業研究会の活性化に取り組んだ事例 (p.15)

3 言語活動を通して、自ら学び、自分の考えを表現できる児童の育成に取り組んだ事例 (p.16)

4 ノート指導の充実に取り組んだ事例 (p.17)

5 家庭との連携

1 保護者への啓発資料などを工夫し、家庭学習の充実を図った事例 (p.21)

2 小・中学校が協力して資料を作成するなど、特色ある取組で家庭との連携を図った事例 (p.22)

3 家庭学習プロジェクトなどの取組により、家庭学習の習慣化を図った事例 (p.23)

10月			11月			12月			1月			2月			3月			
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
プランに基づく授業改善	一人一授業校内研究会			指導資料「授業改善例」受領	指導資料「授業改善例」を授業で適宜活用							学力向上改善レポート作成	学力向上改善レポート提出			次年度の計画立案		
				訪問4回目 プランに基づく授業研究会		訪問5回目 日程調整							訪問5回目 成果と課題の確認、次年度の取組検討	アドバイザー活用報告書提出				

4 授業改善

5 「思考力・判断力・表現力」について重点的に指導する単元一覧を作成して取り組んだ事例 (p.18)

6 難易度の高い課題に挑戦しようとする意欲の向上に取り組んだ事例 (p.19)

7 生徒質問紙で課題のあった項目を意識し、授業改善に取り組んだ事例 (p.20)

5 家庭との連携

4 自主学習ノートの指導に力を入れ、家庭学習の習慣化を図った事例 (p.24)

1 校内体制の構築

■取組のポイント

- 学力向上推進の核となる学力向上担当者を校務分掌に位置付け、学校全体の取組の活性化を図った。
- 学力向上担当者を中心に授業力の向上、基礎・基本の確実な定着を図る取組、家庭との連携・協力を推進した。
- 具体策に関するアンケート等により、学力向上改善プランの検証、評価を行い、プランの具現化に取り組んだ。

学校全体で、学力向上に関する取組の内容や方法について研究を進めている。

1 校内体制の構築

また、日頃から教員間のコミュニケーションを促進する役目も果たすことで、教員同士が活発に話し合い、校内研修の活性化が図られている。

2 学力向上担当者を中心とした組織的な取組

(1) 授業力向上の取組

① 校内研修の活性化

担当者が研修啓発資料「学校課題研究通信」を計画的に発行している（年間15回）。本資料は、課題解決のための指導法の紹介や授業研究会に臨む視点など、校内研修の活性化を目指した内容である。

② 自主研修の日常化

授業に関する日常的な学び合いの場として、「〇〇・文殊の知恵タイム」（金曜日１５分間）を設定し自主研修を行っている。教員が抱えている授業の悩みや効果的な指導法などの情報

交換の場となっている。

(2) 基礎・基本の確実な定着を図る取組

① 全校体制での取組「スキルタイム」

基礎・基本の定着を図るために、朝の学習として実施している。学年以外の教員も指導に当たり、個に応じた支援の充実を図っている。

② 基礎力テストの作成・実施

国語・算数の基礎力の向上を図るために、基礎力テストを10月～2月の計5回実施した。児童には「基礎力テストの歩み」に結果を記録させ目標を持って取り組ませている。テスト問題は、「とちぎの子ども基礎・基本」を参考にして、学年で分担して作成している。

(3) 家庭との連携・協力を図る取組

家庭学習の習慣化と保護者の理解・協力を得るために、「家庭学習本気週間」を計画し、年3回(10月、11月、1月)実施した。また、本取組と連動して、「親子読書週間」も実施した。これらの取組について保護者の理解を一層得るために、家庭啓発通信(年15回)を発行した。

第2回 家庭学習習慣 “本気” 週間シート
親子対面型週間シート
上巻（全巻）
は、家の人とどう関わりながら学習していきますよ。

1 家庭学習に取り組む時間

2 家庭学習する場所

3 家庭学習の計画に記録（自主型）

母・父 1 / 1 / 10 分 1 /

目標

自主学習

指導時間（分）

学習時間

家の人の一言（分）

疑問に

親子関係

保護者へのコメント

指導時間

家の人の一言（分）

疑問に

自主学習の内容や時間を記入する。

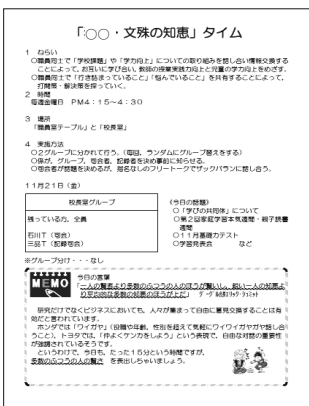
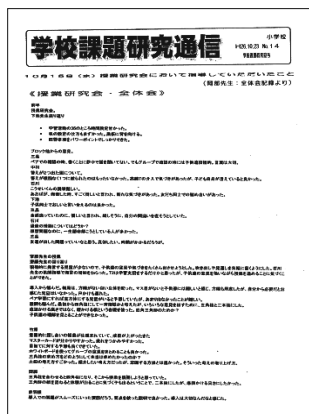
保護者にコメントを書いていただく。

(4) 学力向上改善プランの中間的検証・評価の取組

学力向上改善プランの重点的な取組の中の「家庭学習の充実」「親子読書」については、強化週間後に親子で記入した「〇〇週間シート」を回収し、中間的な検証・評価を行った。このことは、担任が児童への指導や保護者への働きかけなどを振り返るよい機会となった。

まとめ

- ◆ 学力向上担当者を、学力向上の推進役として、校務分掌に位置付けることで、学力向上改善プランの具現化を図るための手立ての提案がしやすくなります。また、教員間のコミュニケーションを促進することで、組織的な取組をさらに充実させることができます。



1 校内体制の構築

事例2 【小学校】授業研究会の持ち方の工夫に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 教師の指導力を向上させる授業研究会の持ち方を工夫した。
- 教師の意見等を記録する用紙を時系列にすることで授業の流れを重視した話し合いを実現した。

■学校の概要

工業団地に隣接した中規模校である。

以前から学力向上への意識が高く、算数科の指導を中心として、学力向上支援員の力を借りてT.Tの学習などを進め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指している。また、学びに向かう集団づくりの一つとして、授業への意欲を高めるめあての提示の工夫に全教員で取り組んでいる。

■取組の内容

この学校は、今日必要とされている思考力・判断力・表現力等を十分育む授業を実践していくことを目指している。そのためには、教師の指導力を向上させるために、教員が一堂に会して意見を順番に述べるような従来の研究会の形から、より活発に議論を交わすことができる研究会へと改善していく必要があると考えた。さらに、授業改善の視点に注目することに加え、授業全体の流れを大切に改善を図ることが重要であると考え、次のような取組を行っている。

1 研究授業の実践までの取組

- ・授業研究会を改善し、質を高めていくことを全教員で確認した。
- ・年間3回の授業研究会を実施し、1回で2授業を行った。
- ・研究授業に向けた事前授業や指導案検討会を、各学年で実施した。

2 授業研究会の工夫

(1) 話し合いの充実に向けたメンバー構成や数

話し合いを4名の小グループで実施することにより、全員が話し合いに加わり、若い教員からも活発な意見が出るようになった。検討内容を全ての学年に周知するため、話し合いでは、各グループに低・中・高それぞれの学年のメンバーが必ず入るようにした。

(2) グループ協議を進行するリーダーの育成

学年主任など、経験豊かな教員が司会を行うことで、充実した話し合いができるようにした。

(3) 作業シートの工夫

授業1時間の流れを時系列で振り返ることができるよう作業シート（時系列記録用紙）を工夫した。これまでの授業研究会でも、研究テーマに基づき、

発問や児童の発言の取り上げ方、板書などといった視点ごとに話し合いが行われていた。この学校は、それに加えて、授業全体の流れから授業の良さや改善点を捉えたり児童の思考の流れを捉えたりすること



が大切であると考え、参観者が気付いたことを記録した付箋を拡大した指導案に

貼り付けることで、授業の流れに即して話し合いができるようにした。

3 授業研究会での話し合いの実践

グループでの話し合いは、少人数であれば話す機会も多く活発なものとなるが、話し合いの質が問われることになる。

各グループに経験豊かな教諭が入りリーダーとして話し合いを進めているため、話し合いの深まりが見られた。また、時系列記録用紙に気付いたことを記入していくことで、児童の思考の流れを意識しながら授業全体で本時の目標が達成されたか、不十分であればどこに原因があるかなどを話し合うことができた。



まとめ

- ◆ 授業研究会をよりよいものに改善していこうという意識を全教員がもつことで、組織としての取組が高められていきます。
- ◆ この事例のように、作業シートを工夫したり話し合いのグループを意図的に構成したりすることで、視点が明確で深まりのある協議を行うことができます。

1 校内体制の構築

事例3 【小学校】学力向上のために校内学力向上委員会を立ち上げて、校内組織を機能させた事例

■取組のポイント

- 校内学力向上委員会を立ち上げることで協働体制をつくり、課題の解決に取り組んだ。
- 学力向上改善プランを適切かつ円滑に推進するため組織的な取組を実践した。

■学校の概要

一部工業団地が進出しているが、稲作・果実・園芸作物栽培を中心とする典型的な農村地域であり、緑に囲まれ、自然豊かな教育環境にある小規模校である。

とちぎっ子学習状況調査では、おおむね県平均正答率を上回っている。家庭学習については個人差が見られ、学力が二極化傾向となっていることなどの課題があり、全教職員で学力向上に取り組んでいる。

■取組の内容

1 校内学力向上委員会の目的と構成

とちぎっ子学力アッププロジェクトが始まったことを受け、従前から行っていた取組をさらに推進するため、校内学力向上委員会を設置し、この組織を中心として学力向上に取り組んでいる。

(1) 目的

とちぎっ子学習状況調査の結果を基に、今後に向けた学力向上のための全校的な改善策を検討する。

(2) 構成

原則として、校長、教頭、教務主任、学習指導主任、各担任により構成する。

2 校内学力向上委員会の開催と内容

(1) 第1回 7月30日(水) 9:00～12:00

- ① 平成26年度とちぎっ子学習状況調査による各学年の結果説明(各担任)
- ② 各学年の課題と改善策の検討
- ③ 9月からの学力向上改善案の検討



(2) 第2回 9月10日(水) 16:00～16:35

- ① とちぎっ子学習状況調査結果についての保護者向け通知文の説明
- ② 配布する資料の内容検討
 - ・調査結果(国語、算数、理科、児童質問紙)について
 - ・これまでの本校の取組及び今後の学力向上に向けた取組について
 - ・保護者へのお願いについて

(3) 第3回 10月8日(水) 15:20～16:35

- ① 全国学力・学習状況調査の結果説明
 - ・調査内容(問題等)の確認
 - ・結果の全体概要と教科の課題・改善策の検討
 - ・今後の取組の全校的な共通理解
- ② 協議・指導助言等
 - 町教育委員会の指導主事による指導助言

3 校内学力向上委員会からの働きかけ

校内学力向上委員会を実施した後、話し合われた内容をまとめた資料を2日後に配布し、取組の周知徹底を図っている。

重点的に取り組む内容

- ・「学習の3つの約束」の徹底
- ・ノート指導及び自主学習ノートの指導、テストの受け方指導についての共通理解
- ・生活習慣
- ・家庭学習
- ・チェックカードの実施
- ・「わかる・できる・楽しい授業」の実践など

項目	達成度	達成日	達成率	達成者
1. 学習の3つの約束	達成	10月8日	100%	全学年
2. ノート指導	達成	10月8日	100%	全学年
3. テストの受け方	達成	10月8日	100%	全学年
4. 生活習慣	達成	10月8日	100%	全学年
5. 家庭学習	達成	10月8日	100%	全学年

第3回学力向上委員会を実施して

26年10月10日

8日は、学期末の貴重な時間の中、ありがとうございました。また、各学年で9月から県の学力テストに向けた対策をスタートさせていただきありがとうございます。今回の話し合いを受け、今後学校全体や学年で進めていくことにつきまして整理しましたので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

1 各学年の実態に応じ工夫して進めていくこと

- ①漢字や語力の育成について
 - ・授業や読書の学習・家庭学習を活用し、各学年の実態に合わせて工夫して進めていくようにする。
- ②表現力・読解力の育成について
 - ・授業以外に毎週水曜日の朝の活動「言葉」の時間に練習プリントなど(新しく購入した物あり)を使って書く力や読む力を高めていくようにする。
 - ・ペア学習や小集団学習(グループ)で、自分の考えを自信をもって表現できる力を育てる。
- ③読書の活用を工夫し継続していく。
- ④自主学習を個に応じすすめていく。

2 委員会等で

- ①読書の啓発活動(親子読書・読書ラリー・本の紹介ポスターなど)
- ②故事成語やことわざの紹介掲示物作成・・・図書委員会・放送委員会

3 全校で進めていくこと

- ①「学習の3つの約束」の徹底・・・各教員の掲示物活用(人の話を聞いて聞く・態度を必ずやる・ノートは下書きをして丁寧に書く)
- ②「全国読書週間」の際の校内読書紹介文の作成と掲示(11月1日下校)
- ③生活習慣・家庭学習チェックカードの実施と活用(11月)(1月)
- ④自主学習ノートの展示(10月)(2月)PTAの道に実施
- ⑤ノート指導
- ⑥テストの受け方指導
- ⑦個別指導の充実のためのスクールカウンセラーの有効活用
- ⑧デジタル教材の活用
- ⑨日常的な「わかる・できる・楽しい授業」の実践

☆「がんばれば結果が出る」環境を作っていくことで、児童の学習意欲を高めていく。

まとめ

- ◆ 学力向上に向けて同一步調による指導を徹底していくためには、全教職員の共通理解を図る組織を校内に設置することが効果的です。
- ◆ 学力向上に学校が一丸となって取り組むことで、同僚性・協働性が高められていくことも期待できます。

1 校内体制の構築

事例4 【小学校】「授業づくり10か条」を設定し、分かりやすい授業づくりに取り組んだ事例

■取組のポイント

- 校長のリーダーシップの下、「授業づくり10か条」を見直し、目指す授業像の共通理解を図った。
- 児童一人一人に目を向け、どの子にとっても分かりやすい授業になるような手立てを工夫した。
- 授業研究会では、実践を具体的に記録した「自分が実践したこと」を基に話し合い共有化を図り、指導法の工夫・改善を行った。

■学校の概要

市街地中心部に位置し、学区内には住宅地や商業施設が多い。児童の実態に応じた指導の充実を図るため、分かりやすい授業を実践することを研究課題としている。とちぎっ子学習状況調査では、県平均程度であり、あいさつ等の生活習慣や、自尊意識や自己有用感にやや課題が見られる。

■取組の内容

この学校では、児童一人一人の個性に応じた適切な指導を行うことを重視し、児童の満足感や達成感を味わわせることを通して自己有用感を高めていきたいと考えた。そのために、授業力を高めることが重要であると考え、まず、通常の学級における、特別支援教育の視点を大切に授業づくりに取り組んできた。

1 調査結果の分析に基づく授業づくりの3つの柱

- ねらいに迫る学習の「めあて」の在り方（ねらいの提示と振り返りの実践）
- 分かりやすい授業（発問や板書の工夫）
- 自己肯定感、有用感を育成する活動（考える場、学び合いの場の設定）

2 市教育委員会による要請訪問（7月23日実施）

特別支援教育担当指導主事を招き、「ユニバーサルデザインの授業づくり」に関する校内研修を行った。

3 「授業づくり10か条」の見直し

校長のリーダーシップの下、以前から取り組んできた「授業づくり10か条」を基に、学校の目指す授業の姿を明確にした。

〇〇小学校 「授業づくり10か条」

- 1 子どもの今（実態）から授業を組み立てる。（十分な教材研究）
- 2 明確な「めあて」を提示し、共有する。
- 3 「めあて」に迫る適確な発問をする。
- 4 授業が見える「板書」の工夫をする。
- 5 「考える場」「学び合う場」を設定する。
- 6 意欲付けを図る。（教師の表情・声かけ・励まし・賞賛）
- 7 「振り返り」で「めあて」の達成を確認する。
- 8 具体物・抽象物・視聴覚教材などを効果的に活用する。
- 9 「分かりやすさ」に努める。（見通し、構造化、具体的な指示、五感等）
- 10 「安心感」づくりに努める。（認める、認め合い助け合う、きまり等）

「授業で鍛え、行事で育てる。」
「いい顔 いい声 いい心」の児童の育成を目指して。

4 授業研究会の実施

授業研究部が中心となり、「授業づくり10か条」に基づき、児童の実態に合わせた分かりやすい授業としてユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりを行った。

また、その検証のため、授業研究会を複数回行った。研究授業の前には、指導案検討会を校内研修会に位置付けた。授業者は、本時における具体策を「自分が実践したこと」として、指導案とともに資料として提供した。各授業実践における成果と課題を検証しながら研究会を積み重ね、回を追うごとにステップアップした授業となるよう学校体制で取り組んだ。

授業研究会資料（10月20日実施）

(2) 教師の指導力 10月20日 2年 算数の実践 「四角の九九の構成」				
組織的・重点的な取組	課題	具体策	自分が実践したこと	感想・評価
どの子にも分かりやすい支援の工夫	分かりやすく、意欲的に取り組める具体的なめあての提示が十分でない。	ユニバーサルデザインの授業を実践し、授業研究会（10月2年算数、3年国語、11月1年5年算数）等で検討・協議する。	板書に絵を取り入れたり教室掲示・実物投影機を使ったりして児童が理解しやすい工夫をする。（視覚化の工夫） 自主的に取り組めるようにワークシートやヒントカードを活用する。（分かりやすさ）	

授業研究会資料（11月20日実施）

(2) 教師の指導力 11月20日 1年 算数「ひき算」の学習の実践				
組織的・重点的な取組	課題	具体策	自分が実践したこと	感想・評価
どの子にも分かりやすい支援の工夫	分かりやすく、意欲的に取り組める具体的なめあての提示が十分でない。	ユニバーサルデザインの授業を実践し、授業研究会（10月2年算数、3年国語、11月1年5年算数）等で検討・協議する。	・具体的なわかりやすいめあてを提示することにより、意欲や安心感をもたせるようにした。 ・授業をパターン化して学習の仕方を学ばせると共にワークシートもパターン化し、自分がやりやすい方法で課題に取り組むことができた。	

まとめ

- ◆ 校長のリーダーシップの下、「授業づくり10か条」を見直したことで、学校の目指す方向性がより明確になってきています。
- ◆ 分かりやすい授業の実践に向け、授業研究会を通して指導法の工夫・改善に心がけることで、教師の指導力が向上してきています。
- ◆ 児童の学習意欲の向上のために、視覚化の工夫やワークシート、ヒントカード等の自作教材による個別の支援が有効です。

1 校内体制の構築

事例5 〔中学校〕校長のリーダーシップの下、「授業力」の向上に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 小規模校の特性を生かし、校長のリーダーシップの下、全校体制で学力向上に取り組んだ。
- 学力向上の基盤である「学業指導」の自校化に向けて、「学びに向かう集団づくりチーム」「子どもが意欲的に取り組む授業づくりチーム」を設置し、それぞれが年間計画を作成して実践に取り組んだ。

■学校の概要

田園地帯に位置する小規模の中学校で、保護者は学校に協力的である。

ここ数年、教師の「授業力」の向上に重点を置き、学校全体で学力向上に取り組んでいる。

■取組の内容

1 校内体制の構築に関わる取組

- (1) 学力向上の基本方針として、学校独自の「学力向上への道」を掲げ、全校体制で実践に取り組んでいる。

「学力向上への道」とは

教師が自己の授業の実態と、客観的かつ誠実に向き合い、真摯に授業力の向上を図ること。特に、自分の担当教科については全責任をもち、常にPDCAを継続し、成果の実感につなげる。

- (2) 学力向上に欠かせない「学業指導」を重視し、研究組織の中に「授業づくりチーム」と「集団づくりチーム」を設置して、本校の実態を踏まえた取組を行っている。

①「〇〇中版学業指導」の作成

教科ごとに授業づくりの視点を明確にした。

子どもが意欲的に取り組む授業づくりへの取組

視点1 自信をもたせる授業づくり （「できた・わかった」という喜びや達成感が味わえる授業）	視点2 コミュニケーション能力を育む授業づくり （「学び合い」がある授業）	視点3 一人一人の実態に配慮した授業づくり （学習不適応の未然防止）
(1) 授業の始めに前時の復習を必ず行い、基礎的な事項が定着するようにする。 ・小テストを実施する。 ・全体での確認を行う。 (2) 生徒の興味・関心を高める課題の設定や教材の提示を行う。 (3) 「楽しい・できた・わかった」授業の実践 ・生徒の自己評価、授業評価を生かす。	(1) ペア学習・グループ学習（3人・4人）を多く取り入れる。 ・発言の機会を多くし、自信を持たせる。 (2) 発表し合う活動の重視 ・自分のグループの意見を根拠を明らかにして説明する。 ・他のグループの意見を聞き、自分の考えを深める。	(1) 適切な資料を提示し、必要に応じて学習プリントを配布する。 (2) 固定化しないグループ作り ・誰でも話し合いができるように、話し合いのルールの確認を行う。 ・グループ内での司会、書記、発表者など一人役とする。
		

②本年度の最重要課題の設定

教職員の行動の指針として「Key Phrases 教職員の合言葉」を設け、共通理解を図った。

- ・どの授業も共通して実施する、分かる授業の手法の共通理解・共通行動
- ・各教科の特性を生かした分かる授業の手法の確立
- ・学級担任の教科指導（昼休みの効果的利用）
- ・教科担任の生徒指導（授業規律の徹底）
- ・宿題の出し方、家庭学習のさせ方の共通理解・共通行動
- ・保護者への家庭学習の啓発
- ・実践は、具体的に！

③教師のための「〇〇中授業づくりのあたりまえ10箇条」の作成

【〇〇中の授業づくりのあたりまえ10箇条】 H26.4.30作成

～「わかる！ 楽しい！ 頑張りたい！」と言わせる授業を～

- 1 チャイム開始、チャイム終了
- 2 冒頭5分以内の前時の振り返り・復習確認小テスト、口頭確認
- 3 「本時のめあて」の提示
- 4 ワークシートやノートの活用（考え、定着させる場）
- 5 生徒に実際に目を遣る時間は7割以上を目標に
- 6 説明は短くわかりやすく、指示は具体的に、明確に
- 7 終末5分で、まとめと宿題の指示、次時の確認小テストの出題
自己評価（振り返り）
- 8 誰もができ、わかりやすい宿題の指示
- 9 全員提出を目標に（学級担任とも連携して）
提出させたものは必ず見て、早く返す
- 10 生徒の成績は教科担任の授業の鑑と心得る

2 校長のリーダーシップと教員の授業スキルを生かした取組

- (1) 生徒による授業の評価

生徒が求める授業を把握し、教員自らの授業改善を図る。

- (2) 授業力アップアンケート

教員自身による授業の振り返りを実施する。

- ・指導で効果的だと思う点
- ・授業で不十分だと思う点

- (3) 授業のスキル・マイスタープランの実施

授業力向上のために、互いの優れたスキルを相互授業参観で共有する。

教員の授業アンケートに伴う授業改善プラン		中学校	
授業力向上のために、お互いのスキルを共有しましょう。			
方法		① リストから自分が公平かつ優秀な先生で働いている先生を選び、授業参観を希望する先生にお願いする。 ② 授業参観の日程（月・日・時間）を決定し、授業参観を実施する。	
③ 授業参観後、授業参観した先生に授業参観の感想を記入してもらう。		④ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
⑤ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		⑥ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
⑦ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		⑧ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
⑨ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		⑩ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
⑪ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		⑫ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
⑬ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		⑭ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
⑮ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		⑯ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
⑰ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		⑱ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
⑲ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		⑳ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㉑ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㉒ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㉓ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㉔ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㉕ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㉖ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㉗ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㉘ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㉙ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㉚ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㉛ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㉜ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㉝ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㉞ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㉟ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㊱ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㊲ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㊳ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㊴ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㊵ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㊶ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㊷ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㊸ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㊹ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㊺ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㊻ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㊼ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㊽ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	
㊾ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。		㊿ 授業参観した先生は、授業参観の感想を記入し、授業参観した先生に提出する。	

まとめ

- ◆ 組織を挙げての「学力向上への道」の取組が、教師個々の授業力の向上と生徒の学習意欲、学力の向上につながっています。
- ◆ 校長のリーダーシップは、学校経営を基盤として組織力・学校力を向上させるためには欠かせませんが、実践にあたっては、日頃の職員相互の良好な人間関係や共通理解（共通行動）が必須です。

2 調査結果の分析・プラン作成

事例1 【小学校】調査結果を学級ごとに分析し、学級の実態に即した取組を行った事例

■取組のポイント

- とちぎっ子学習状況調査の結果を学級ごとに分析し、各学年・各学級の特徴や課題を明確にした。
- 明らかになった課題を改善するため、学級の実態に即した具体的な取組プランを作成した。
- 学年だよりや学年部会等により、課題や取組を伝え、改善に向けての啓発活動を行った。

■学校の概要

市の中心地にある中規模校で、保護者の転勤等が比較的多い。学習に意欲的に取り組む児童が多く、運動も盛んである。保護者も学校に協力的である。

学区内の他の小・中学校と連携しながら、学力向上や児童生徒指導上の課題解決に向けて取り組んでいる。

■取組の内容

1 調査結果の分析に関わる取組

学力向上担当者を中心に、学力向上アドバイザーの助言を参考にしながら、「とちぎっ子学習状況調査」の児童質問紙調査結果の分析を行った。

その結果、学校全体として特に改善が必要と考えられる項目は次のとおりであった。

- (1) 「基本的な生活習慣」
- (2) 「生活環境・家族・社会」

この項目の分析を学年に留めることなく、学級ごとまで詳細に分析した。分析の結果、課題の違いがみられたので、学級ごとに課題の改善に取り組んだ。

<各学級の課題となった質問項目>

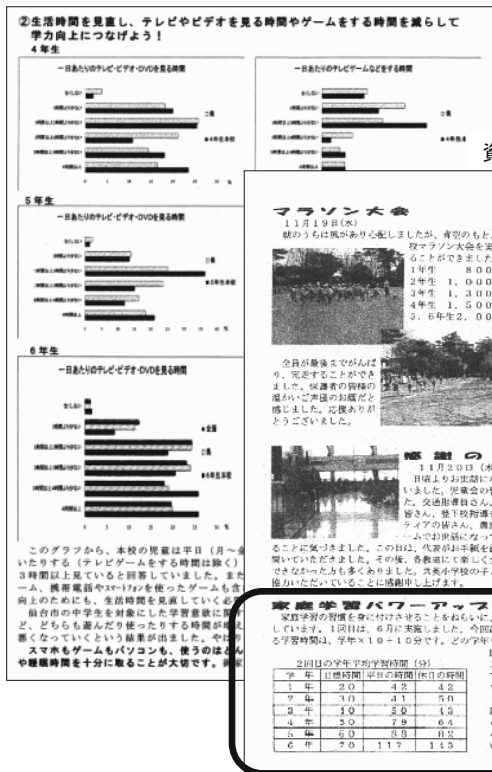
学級	基本的な生活習慣	生活・家族・社会
A	学校の準備を自分でする	家族の励まし
B	毎朝朝食を食べる	普段の生活が楽しい 家族の励まし
C	毎日の睡眠時間	家族の励まし 新聞を読んでいる
D	ゲーム・スマホの使用時間	普段の生活が楽しい

2 課題改善のプランの作成及び保護者への啓発

調査結果の分析を踏まえ、「基本的な生活習慣」や「家庭環境・家族の関わり」などの改善が、学力に影響していることを、啓発資料（資料1）や学校だより（資料2）、学年部会での説明などを通して保護者に伝え、改善を呼びかけた。

学力向上改善プラン「保護者の理解・協力」に1日の生活を振り返る「親子振り返り週間」を位置付け、全校体制で6月、11月、2月に実施している。さらに「親子振り返り週間」では学校だより、学年だより、学級通信（資料3）を活用し、改善を促す内容を保護者向けに出している。

資料1「啓発資料」



資料2「学校だより」



資料3「学級通信」（5年生6月、12月 抜粋）

親子振り返りの結果

先週は、振り返り週間で、親子で毎日の生活を振り返っていただきました。課題として印象が残ったのは、「早寝」と「ノーテレビデー・ノーゲーム」です。一週間を通して達成できなかった割合は以下の通りです。

○あいさつ返事ができなかった	2%
○早寝ができなかった	32%
○ノーテレビデー・ノーゲームができなかった	38%

あいさつ返事は大変素晴らしいです。さすがです。一方で、早寝、テレビ、ゲームは大きな課題です。情報化社会で仕方ないといえ、テレビ・ゲームに時間をかける部分、就寝時刻がずれ込む背景があると思われます。時間をきめるように指導していきたいものです。

親子振り返りの1週間を 振り返ります!!

評価項目	平日	休日
早起きができた	76.8	46.4
挨拶や返事ができた	93.8	94.0
朝食を食べた	96.4	96.4
早寝ができた	67.9	61.9
ノーテレビ・ノーゲームが守れた	63.4	52.4
家庭の約束が守れた	77.7	86.9

先月1週間、生活習慣を確認するために、親子振り返りを実施しました。御協力ありがとうございました。振り返りを通して、左の表は、各項目のできた割合です。その結果、就寝に課題があることが分かりました。「早く寝る」＝「早く起きられる」を徹底したいものです。平日と休日の格差も気になります。そのせいで週明けの月曜日の宿題提出率は、低い傾向にあります。

まとめ

- ◆ 調査結果を学年の分析に留めることなく学級ごとに行うことで、学級の実態に即した改善を図ることができるため、効果的な指導につながります。
- ◆ 保護者への啓発活動等を全校体制で行ったり、活動の結果を共有したりすることで、学校の組織的な教育活動につながります。

2 調査結果の分析・プラン作成

事例2 【小学校】ワークショップ形式の校内研修で学力向上改善プランの作成に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 校内研修の時間を使い、全教員で調査結果データの分析と学力向上改善プランの作成に当たった。
- プラン作成に全教員を参画させるため、ワークショップ形式で具体策の検討会を行った。

■学校の概要

市の中心部に位置する小規模校で、学区内には官公庁や公園などがある。また、近隣には繁華街があり人の往来が多い地域である。

ほとんどの学年で、児童の基礎的・基本的な知識・技能の定着度は高いが、学力差が見られる状況にある。

■取組の内容

この学校では、学力向上の取組を全校体制で行っていくために、調査結果を基にした学力向上改善プランの作成を校内研修の時間に全教員で行った。その際、県教育委員会から示された「とちぎっ子学習状況調査結果資料の見方、使い方について」を参考にした。

校内研修①（7月16日実施）

1 調査結果の分析・問題点の洗い出し

「教科に関する調査」「児童質問紙」等の結果について、以下の観点から問題点等を洗い出した。

- ・県平均より5ポイント以上高い設問・質問事項
- ・県平均より5ポイント以上低い設問・質問事項
- ・県平均との差があまり見られないが、学校として特に重視していきたいもの

研修後、担当者が一覧表に整理した。

2 これまでの重点的な取組の分析

これまで、本校が重視して取り組んできたことの中で、今後も引き続き取り組んでいきたいことを以下のとおり挙げた。

- ・特別支援教育を重視した授業づくり
- ・家庭学習マイプランの取組
- ・校内漢字検定・計算検定
- ・個のニーズにあった支援の工夫（朝の学習支援・習熟度別学習）

校内研修②（7月26日実施）

3 課題の絞り込み

前回の校内研修を受け、課題の絞り込みを、4、5名の3グループで行った。作業はグループごとに「子どもの学ぶ意欲・学習習慣」、「教師の指導力」、「保護者の理解・協力」の3つの視点で学校として組織的・重点的に取り組むべき課題について検討した後、全体で発表し共有した。さらに類似のものをグルーピング

して、担当者のリードの下、次のように整理した。

- ①「子どもの学ぶ意欲・学習習慣」
 - ・家庭学習の充実
 - ・漢字力の確実な定着
- ②「教師の指導力」
 - ・習熟度別学習・個への支援の充実
 - ・グループ学習の充実
- ③「保護者の理解・協力」
 - ・保護者講演会の見直し
 - ・学年だより、学年・学級懇談会の見直し・工夫

4 具体策の検討・決定

課題に対する具体策として、これから取り組みたいことを各自の付箋に記入した。各自のアイディアが書かれた付箋を模造紙等に貼り、「すぐにできそうなこと」、「取組に時間をかけて考える必要があるもの」、「学力向上に大きな効果が見込めそうなもの」、「比較的効果が小さいもの」、といった観点で優先順位を検討した。

	着手容易 ←	→ 着手困難
効果大 ↑	個のニーズに合った支援の工夫 ・ 習熟度別学習コースの内容の工夫 ・ 一斉学習での支援の工夫 ・ 特別支援教材の工夫	グループ学習 ・ 6年間を見通したグループ学習のスキル指導 ・ グループ学習の進め方（基本型） ・ グループ学習の共通理解
効果小 ↓	朝の学習支援の継続と体制の工夫 ・ 学習支援内容の見直し・工夫 ・ 支援児の情報の共有 ・ 学年レベル別の個別指導	

その後、改善プランの具体策について関係者が再検討し、9月3日の校内研修で全教員に説明し、共通理解を図る場を設けた。

まとめ

- ◆ 学力向上の課題を教員一人一人が意識するためには、ワークショップ形式の検討会が有効です。
- ◆ 9月から改善プランに基づいた取組が行われてきましたが、今まで以上に学校全体で取り組んでいこうという機運が醸成され、授業改善等に成果が出てきています。

2 調査結果の分析・プランの作成

事例3 「中学校」学力向上改善プランの中間評価を実施し、指導の改善に学校全体で取り組んだ事例

■取組のポイント

- 学力向上改善プランの具体策について、学校長を始め各教員が実践したこと及び感想・評価を一覧表にまとめ、共通理解を図り、改善策の見直しに取り組んだ。
- 児童生徒質問紙から課題として捉えた項目を基に作成した「授業に関するアンケート」を、2学期の前・後半2回の実施により授業改善の手がかりを得た。

■学校の概要

小規模校で市街地と農村部が混在した地域にある。家庭・地域・学校が連携した積極的な教育活動を展開し「開かれた学校」「特色ある学校づくり」の推進に努めている。「主体的に学び合う生徒の育成～学業指導の充実を通して、学力の向上をめざす～」を学校課題とし、校区内小学校と連携しながら、生徒の学力向上に取り組んでいる。

■取組の内容

1 学力向上改善プランの中間評価を実施し、全教員で取組状況を確認し合い、改善策の見直しを図った取組

- (1) 「学力向上改善プランの取組検証シート」を用いて「子どもの学ぶ意欲・学習習慣」「教師の指導力」「保護者の理解・協力」の具体策について教員一人一人が「実践したこと」と「感想・評価」を記入する。

学力向上改善プランの取組検証シート一覧②

(2) 教師の指導力

課題	具体策
今年度から「授業の最初にねらいを示す」ということを職員の共通理解として行っているため、生徒の肯定率も高かった。昨年度までは共通理解として行われていなかった。 「友達の前で発表することが得意である」の肯定率は41.3%で、全国と同程度に低い。	継続して取組を行うとともに、「ねらいを達成させるためにどうするか」という点に主眼をおいて教材研究を行う。同時に、授業の中でねらいが達成できたか振り返る活動を取り入れる。 国語科を中心として発表技術を習得させるとともに、各教科の授業で発表する活動を取り入れる。同時に、聴く側の指導も行うことで、発表しやすい雰囲気づくりも推進していく。

所属	氏名	実践したこと	感想・評価
1-1		必ず目標を板書するようにした。	自分も生徒も授業内容がよりはっきりしたと思う。授業が充実したと感じた。
1-2		授業の準備は〇〇までに終わらせるなど、約束事を決めてメリハリをつける。	曜日によって、できるものとできないものがあつた。
1主任		ねらいを示す。 実験の結果を考察する時間をしっかりとる。	学習のふりかえりの時間もあわせてとっている。
1副担		授業計画作成時に、身につける力を設定し、目標としている。授業ごとに学習目標を示している。	書くことにおいて、身につけたことが次の課題に活かされている。
1所属		ねらいを黒板に黄色で毎回書き、生徒は評価表に1行書く。授業の最後の3分間で評価している。	評価の観点が学習の行動になっているところを改善していきたい。
		明確に示すようにしている。	授業開始時に音読して話すよう

- (2) 学力向上担当者が各教員のシートをまとめて一覧表を作成する。

- (3) 校内研修において、一覧表を基に話し合うことで、次の点が確認された。

- ・実践半ばであり継続する取組
- ・効果的であると思われる取組
- ・さらに工夫が必要な取組
- ・新たな課題と考えられる取組

2 「授業に関するアンケート」を9月と12月に実施し、結果を比較することで具体策の取組状況や効果を評価し、授業改善への手がかりとした取組

授業のはじめにねらいが示されていますか。に対して、「はい」または「いいえ」							
		回答数	国語	社会	数学	理科	英語
学校全体	今回	175	98.9%	95.4%	98.9%	91.4%	96.0%
	前回	173	91.3%	97.1%	96.0%	88.4%	89.6%
	比較	***	+7.5P	-1.7P	+2.9P	+3.0P	+6.4P
1学年全体	今回	62	100.0%	98.4%	100.0%	93.5%	96.8%
	前回	62	93.5%	91.9%	93.5%	93.5%	95.2%
	比較	***	+6.5P	+6.5P	+6.5P	±0.0P	+1.6P
2学年全体	今回	46	100.0%	84.8%	100.0%	93.5%	95.7%
	前回	44	93.2%	100.0%	100.0%	95.5%	94.1%
	比較	***	+6.8P	-15.2P	0.0P	-2.0P	+1.6P
3学年全体	今回	67	98.5%	95.5%	98.5%	88.1%	95.5%
	前回	67	93.4%	97.0%	97.0%	79.1%	88.1%
	比較	***	+5.1P	-1.5P	+1.5P	+9.0P	+7.5P

9月と比較して、11ポイント以上向上している。

- (1) アンケートの項目は、本校の課題から各教科等の「授業は分かりやすいですか」「好きですか」「ねらいが示されていますか」「将来どのように役立つか話されていますか」とし、2回目は「ねらいがあると分かりやすい」「将来についての話を聞くと意欲が上がる」を加えた。
- (2) 結果は、学校全体・学年別・学級別・個人のものを一覧表やグラフにして全教員に示した。
- (3) 学力向上担当者が、アンケート結果の考察の中で授業改善の視点からの提案と学力向上改善プランの具体策への一層の取組の必要性を示し、全教員で共通理解を図った。

まとめ

- ◆ 学力向上改善プランについて、2学期中盤に全教員が評価を行い情報を共有することにより、具体策の進捗状況及び効果的な取組や課題などの確認をすることができます。また、同一歩調で学力向上対策に取り組もうとする教員の意識を高めることができます。
- ◆ 学力向上改善プランの具体策に関わる「授業に関するアンケート」を2学期に2回実施することにより、教員の取組状況や成果と課題、生徒の変容などの理解につながり、その結果を指導の評価・改善に活用することができます。

3 児童生徒へのフィードバック

事例1 〔小学校〕「学力向上ファイル」を作成し、個人票やフォローアップシートの活用を図った事例

■取組のポイント

- 個人票やフォローアップシートの見方や使い方を指導し、「いつ、どこで、どのように」使用するかを具体的に示した。
- 「学力向上ファイル」の活用について保護者宛て通知を配布し、家庭学習への理解・協力を得た。

■学校の概要

中規模校で、学校周辺には主要道路が通り住宅地も増えている。自然や歴史的な文化芸能が残る地域でもある。

「協同で学ぶ『学び合い』がある授業づくり」を学校課題として、学校全体で学力向上を目指して取り組んでいる。

■取組の内容

家庭学習を確実かつ効率的に行うために、児童一人一人に「学力向上ファイル」を作成し、その活用を図った。

1 「学力向上ファイル」の作成・活用

(1) 「学力向上ファイル」の内容

- ・教科に関する調査の個人票
- ・児童生徒質問紙調査の個人票
- ・教科に関する調査の問題と答案
- ・フォローアップシート

(2) 「学力向上ファイル」の取扱い

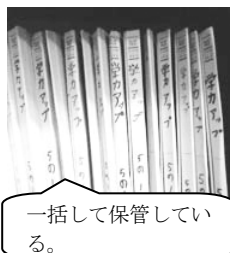
- ・長期休業中の家庭学習に活用する。
- ・学期始めに提出し、学級担任が確認・指導の後、学校で保管する。
- ・学年進級後も次年度調査結果との比較・検証や指導のための資料として活用する。

(3) 個人票「あなたの結果」の活用

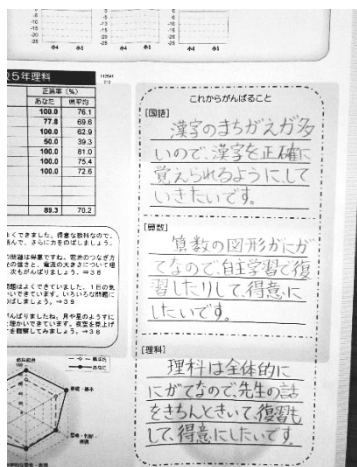
- ・児童と保護者が「あなたの結果」について話し合い、「これからが**がんばること**」を相談しながら記入させる。
- ・各学期末に記入したことについて自己評価させる。

(4) フォローアップシートの活用

- ・「目次」を利用して、個人票の「学習のアドバイス」に示されたページ、苦手な内容の問題のあるページに○印を付け、夏季休業中に必ず取り組む課題とする。
- ・その他の問題は自主的に取り組む選択課題とする。



一括して保管している。



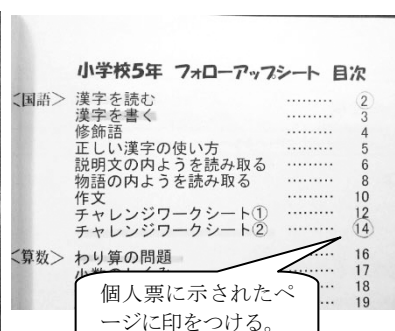
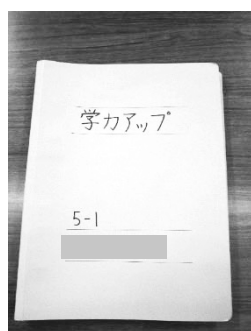
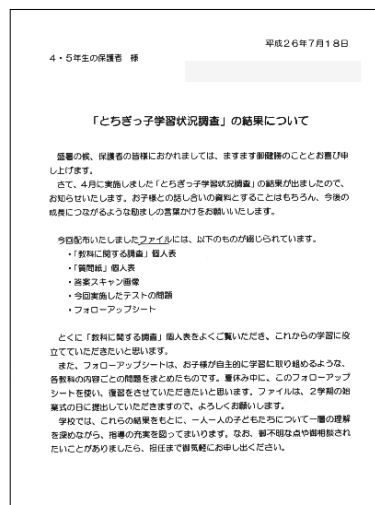
- ・2学期始めにフォローアップシートを提出させ、実施状況を学級担任が確認する。
- ・冬季休業中及び学年末休業中も、同じ取組を繰り返す。

2 保護者の理解と協力

(1) 保護者宛ての通知を出し、「学力向上ファイル」の内容、活用の目的と方法などを知らせ、調査についての理解を深めてもらう。

(2) 個人票や問題・答案等について子どもと話し合い、学習意欲が高まるよう助言、賞賛、激励などをしてもらうよう依頼する。

(3) 学年・学級懇談会や個人懇談の折にも「学力向上ファイル」の活用について、説明や確認を行う。



まとめ

- ◆ 「とちぎっ子学習状況調査」の結果を一括して「学力向上ファイル」に綴じ込むことにより、児童自らが学習や生活について、効果的に振り返ることができ、それらを、今後の学習や生活に生かすことができます。
- ◆ 本事例では、フォローアップシートを夏・冬・学年末の長期休業時に活用するよう計画していますが、日々の授業や家庭学習に活用することも考えられます。

3 児童生徒へのフィードバック

事例2 〔中学校〕個人票やフォローアップシート、調査問題を活用しフィードバックの充実に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 学級担任が、個人票やフォローアップシートの見方や活用の仕方について説明したり、学年懇談会等で、保護者にそれらの活用について理解や協力を求めたりした。
- 放課後の学習時間に、フォローアップシートを活用して学習内容の定着を図った。

■学校の概要

山間部に位置し、スクールバス通学の生徒がいる小規模校である。保護者・地域の方々は学校に対して非常に協力的である。

小規模校の特性を生かし、放課後の学習の時間を設けたり、大学教授による出前授業を実施したりするなど、独自の学力向上に取り組んでいる。

■取組の内容

1 生徒への指導

学級担任が、個人票の見方やフォローアップシートの活用の仕方について丁寧に説明した。また、生徒一人一人が自らの課題を明確にするとともに、その課題改善に向けて主体的に取り組めるように、個人面談等でアドバイスを行った。

フォローアップシートを夏休みの課題として取りまかせ、2学期の初めに提出させた。提出後は、担任がチェックし、コメントを付けて返却した。

2 保護者の理解・協力

7月に行われた全学年対象の保護者会で、「学習指導だより」を使って調査結果と今後の取組について説明した。さらに、2年生の保護者には、学年懇談会で、個人票の見方やフォローアップシートの活用について説明し、理解と協力を求めた。

学習指導だより

学力調査の結果から

4月22日(火)に、3年生は「全国学力・学習状況調査」、2年生は「ちびっ子学習状況調査」という学力調査を実施しました。以下の学力調査の結果から見られる本校生徒の全体的な特徴や傾向について、報告します。

2 学年 「ちびっ子学習状況調査」

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

この調査では、国語、社会、数学、理科の4科目について、国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。国語、社会、数学の3科目の結果が報告されています。

3 放課後の学習時間の利用

放課後の学習の時間(全校生徒参加の放課後約20分、

年間20～25回実施)を利用して、フォローアップシートで分らなかった問題などについて、教師が丁寧に解説をすることで、前学年の学習内容の確実な定着を図った。

第10回 9月29日(月)			
教科	学年	内 容	準備するもの
国語	1年A	漢検の学習	ある人は問題集
社会	1年B	問題練習	筆記用具
数学	3年A	問題練習	筆記用具
理科	3年B	問題練習	問題集
英語	2年	フォローアップシートの復習	筆記用具

・会場は、以前通算してのものです。

・「まなび」のノート、活動記録シートは毎回使用します。

・内容により、教科書や資料集などが必要と想定されます。

・必要に応じて持参をお願いします。

放課後の学習の時間の様子



<生徒の感想>

- ・前に学習した内容で分からなくなっていたものがあつた。
- ・先生に教えてもらいながら、みんなで取り組んだので、とてもよく分かった。
- ・短い時間だったが、少人数なので集中することができた。

まとめ

- ◆ 個人票やフォローアップシートを活用して丁寧に指導することは、自分の課題を把握し、課題克服のための学習方法を身に付けさせるための有効な方法です。
- ◆ 保護者の理解・協力を得るためには、保護者が知りたいことや不安に思っていることを把握し、資料の内容を工夫することが重要です。
- ◆ この学校が小規模校の特徴を生かして放課後の学習時間を設けたように、学校の強みを生かすことが効果的な指導につながります。

4 授業改善

事例1 〔小学校〕独自の授業研究システムを構築し、授業改善に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 「授業力向上プロジェクト（JKP）」の実践を通して、学校独自の授業研究システムを構築し、授業力向上を目指した。
- 年間2回のJKP期間を設定し、その期間中に全教員が授業公開を行い、授業の効果的な振り返りを行った。

■学校の概要

主に住宅地として開けている地域にある中規模の小学校である。地域との交流やPTAの活動が活発に行われている。

人権教育を基盤とした学年・学級経営を行っている。また、教師の授業力向上を図るとともに、その方法等について研究を深めている。

■取組の内容

1 授業力向上プロジェクトの目的

「授業力向上プロジェクト（JKP）」を通して、日頃から教員同士が授業を参観し合う雰囲気や醸成するとともに、授業について活発に意見交換をすることで、授業力向上を図る。

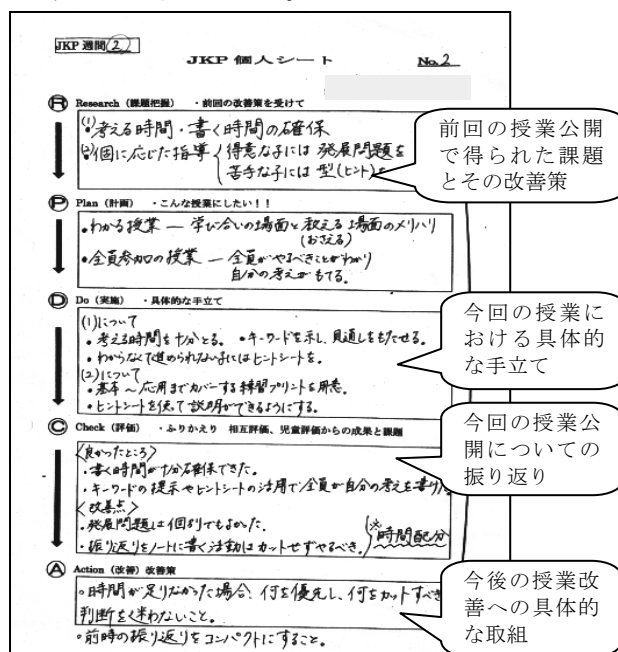
2 具体的な取組

- (1) 年間2回のJKP期間を設定し、その期間に全教員が授業公開を行う。
- (2) 授業公開に当たっては事前に指導案を作成し、全教員に配布しておく。指導案には授業者の意図や授業を見る観点が明確に示されているので、参観者は焦点化して授業を見ることができる。
- (3) 授業者は、学校独自の「授業スタンダード」（教員が共通理解して指導するための指針）に基づいて、授業を構成する。

〇〇授業スタンダード	
平成26年5月	
1 「学習用具のやくそく」がきちんと守れるように日常指導を継続するとともに、保護者への周知徹底を図る。	
2 授業では、次のようなことに留意しながら学習指導にあたる。	
項目	内容
学習の始め	・開始時刻を守る。 ・児童が着席し、姿勢を正して、授業モードに入れるようにさせる。 ・教師の指示または日直等の児童がはっきりと声をかけ、始まりを明確にする。（あいさつの仕方については、学年で統一する。）
学習中	・黙って挙手させる。 ・指名するときは、男女ともに「〇〇さん」と指名する。 ・指名されたら「はい」と返事をし、クラス全員に聞こえる声で、はっきりと発言するようにさせる。 ・「話し上手・聞き上手」を基本に、指導する。 ・話は最後までしっかり聞くようにさせる。 ・異同士、グループ、全体など、ねらいに合った話し合いの場を工夫する。 ・黒板や黒板の中身については、机間指導の時に点検し、きちんと用意させる。（必要のないものは消す。） ・ノートへの記録には、必ず下書きを使用させる。 ・学年や教科に応じたノート指導をする。 ・（例）目付、ページは必ず数える。 ・目当てや課題は、青で囲ませる。 ・結論や大切なことは、赤で囲ませる。 ・発問を精選し、意に分かりやすい話し方や指示の出し方を心掛ける。 ・教師が話しすぎない。 ・話すときの立ち位置についても気を付ける。 ・児童の発言やつづきをうまく生かして授業を進める。 ・板書は、授業の流れが分かるように分かりやすく、丁寧にする。 ・活動には、ゆとりのある適切な時間をとる。 ・人権を尊重した発言をしない、許さない。 ・常に、安全面に気を配る。
学習の終わり	・終了時刻を守る。 ・教師の指示または日直等の児童がはっきりと声をかけ、終わりを明確にする。（あいさつの仕方については、学年で統一する。）
学習後	・「家庭学習のすすめ」をもとに、学年に応じた課題を出す。 ・課題の処理は、速やかに行う。 ・長期休業中の課題については、学年で相談して決める。係に提出する。（市販のドリルは必ず購入）

これは、本校の教職員が共通理解をもって指導するための指針です。初めての試みですので、学習指導要領を中心に、随時改善しながら進めていきたいと思います。

- (4) 参観者は、JKP期間中に自由に参観し、気付いたことを付箋に記し、授業者に渡す。
- (5) 授業者は、授業参観者から渡された付箋を項目ごとに「授業参観記録」にまとめる。付箋を整理することで、自分の強みと課題を把握することができる。
- (6) 「JKP個人シート」を作成することで、これまでの課題改善への取組について、じっくりと振り返ることができる。教師一人一人のPDCAサイクルの確立を目指している。



- (7) JKP期間後には、授業研究会（振り返り）を開催している。作成した資料を持ち寄り、低中高ブロックごとに授業の振り返りをし、活発な意見交換を行っている。ブロックごとに、推進担当者を決め、ワークショップ形式で研究会を実施している。

まとめ

- ◆ 全教員が授業公開することで、授業改善のシステムが構築され、教員同士の活発な意見交換につながっています。
- ◆ 授業者が「授業参観記録」や「学力向上プロジェクト個人シート」を作成することで、自らの実践を効果的に振り返ることができ、実践したことを次の授業に生かすことができます。

4 授業改善

事例2 「小学校」研究授業を通して教員の協力体制を強め、授業研究会の活性化に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 研究授業を担当する学年の全教員が、研究授業について検討し他の学年に提案することで、教員の協力体制の強化を図った。
- 研究授業前に提案する授業の意図や見る観点について参観者に説明し、授業研究会の活性化を図った。

■学校の概要

大規模校であり、校区は商業地域と農業地域から成り立っている。地域の方々との交流や学校緑化活動が盛んに行われている。

学校全体で国語科における「単元を貫く言語活動を位置付けた授業」に取り組む中で、表現する力の育成について、研究を深めている。

■取組の内容

1 組織

- (1) 授業研究会は、上学年ブロック（4、5、6 学年）と下学年ブロック（1、2、3 学年）に分けて実施する。
- (2) 授業研究部、環境整備部、授業外研究部、調査分析部を組織し、各学年の教員から構成された横断的な部会とする。

2 授業研究会の進め方

次の(1)～(4)の流れで授業研究会を進めている。

(1) 授業案発表会

研究授業前に、学年で研究した単元について、上・下ブロック内の先生を対象に説明する。その際作成した指導案、授業の視点を記したレジュメ、単元で使用予定の資料などを提示することで、単元の指導内容を周知する。

指導案発表会用レジュメ

- <5 学年の研究について> *5 学年を参観する前のインフォメーション***
- 1 研究授業についての計画 授業研究部
 - ① 単元名 『くらし』についてのプレゼンテーションをしよう
 - ② この単元を通して身につけさせたい力
本単元では、図や表、グラフや写真を用いて自分の考えに説得力をもたせると説明の仕方の工夫があることを理解し、資料を引用するためにはどのような書き方、どのような資料の取り上げ方をすればよいかについて考えさせながら、自分の考えと統合性をもたせた文章を書くことができるようにさせたいと考える。また、書いた文章を読み合い、互いに意見や感想を伝え合うことで、友達のような意見を持ち、どのような事実をもって考えを主張しようとしているのかを知ったり、社会に対する見方を広げたりするきっかけとなつたらよいと思う。
 - ③ 身につけさせたい力を達成させるための「単元の構想展開の工夫」と「言語活動の工夫」
本単元を貫く言語活動として、『くらし』についての意見文を書き、プレゼンテーションをすることを位置付けた。教材文「天気を予想する」から、図や表、グラフや写真を用いて自分の考えに説得力をもたせると説明の仕方の工夫について学習し、これを生かし、『くらし』についての自分の考えを、グラフや表などを用いて裏付けながら意見を述べる文章を書く活動である。

(2) 研究授業

一つの単元の導入・展開・まとめの部分について異なるクラスで授業を行う。参観者は右の予定表を見て自由に参観する。

4 研究授業の予定		授業のポイント
日 時	クラス 指導者	
10/21 (火) 3 校時	3 年	「日本のくらしについての自分の意見」を整理しながら、学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 《視点》 くらしについての自分の考えを述べ、友達の意見と比べながら話し合う活動や教師の発問が、学習課題へと上手に導かれていた。
10/22 (水) 3 校時	1 年	説得力のある意見文を書くための手立てとして、教材文「天気を予想する」から図・表・グラフや写真などの資料を用いた説明の工夫について読み取る。 《視点》 授業の感想をもとにした読み取りの学習課題、資料や資料に関する記述を讀いた文の提示が詳しく理解させるための手立てとして適切であった。
10/27 (火) 3 校時	3 年	前時に書いた意見文を読み合う活動を行った。本時では、全体での発表となる。意見に説得力をもたせるために資料を使うことの効果を感じる。

参観した授業について、付箋にコメントを書き、廊下の拡大指導案に貼る。

(3) 学年内授業研究会

授業を行った日の放課後に、学年内で授業研究会を行い、成果と課題について話し合った。課題については、次の授業者に生かすことができた。



(4) ブロック内授業研究会

学年で研究授業をした単元の成果と課題についてブロック内の他学年の先生に



説明する。その時、付箋を貼った拡大指導案、使用したワークシート、記録した映像などを利用しながら説明する。参観者は、単元全体に関わることや参観した授業を中心に意見を述べる。

<5 学年の研究について> *研究授業を終えた時点での成果と課題*

- 1 研究授業の反省 授業研究部
- ① 単元名 『くらし』についてのプレゼンテーションをしよう
- ② 研究授業で実践した「単元の構想展開の工夫」と「言語活動の工夫」
本単元を貫く言語活動として、『くらし』についての意見文を書き、プレゼンテーションをすることを位置付けた。教材文「天気を予想する」から、図や表、グラフや写真などの資料を用いた説明の仕方について学習し、これを生かし、『くらし』について資料を用いた意見文を書く活動である。始めに『くらし』について考え、『くらしをすすむ』『くらしにくいか』『仮の自分の意見を持ち、なぜそう考えるのか理由を述べながら意見交換させ、より説得力のある意見を述べたいという思いをふくらませることとした。思い思いに自分の意見に理由を加えて発言する児童に、「本当にそうなの？」と教師が言葉を投げかけると、少々戸惑っていた。そこで、自分の意見に説得力をもたせるために何が必要なのか考えさせると、インターネットで調べたことを加えることよいなどの答えが返ってきた。
そこで、教材文「天気を予想する」から、筆者の考えをより説得力のあるものにしていく表現の工夫について学習し、意見文を書く活動に入っていく。興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう児童の主体的な読みを意識した展開を計画したが、「表現の工夫について学ぶ」ことに重点を置き、教材のポイントを読み取りながら資料を使った説明の効果を実感できよう展開を替えて行った。
次に、自分の意見文を書く準備を始めていった。自分の意見に説得力をもたせるための資料収集では、グラフや表のデータから何を読み取り、何を意味づけているか、自分の考えを裏付ける資料となりえるのかなど、データ解釈と時々のポイントを明確に示した。そして、そうしたことが資料の効果的に用いることにつながった。そして、教科書に示されている資料引用の基本的な記述方法やマナーを参考に、自分の意見の根拠となるようなグラフや表を用いて意見文を書く授業が本時であった。
最後に、書いた文章を友達と読み合い、伝え合う活動を行ったが、読み合う際の視点を明確に示したワークシートを用意し、引用されたグラフや表が意見の裏付けとなっていたか確認しながら読み合わせた。そこで、意見交換を（添削）、プレゼンテーションにつなげることで、教科書のように資料を用いた意見文が書けたという喜びや達成感を味わわせ、書くことに対する抵抗が軽減できたと思う。

まとめ

- ◆ 学年全教員で一つの単元について、研究することで、日頃から情報交換を密に行うようになって、教員の協力体制を強めることにつながっています。
- ◆ 研究授業の前に、授業の意図や見る観点を共有することで、焦点化して授業を見ることができ、授業研究会での話し合いがさらに深まります。

4 授業改善

事例3 【小学校】言語活動を通して、自ら学び、自分の考えを表現できる児童の育成に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 「魅力ある学習課題」、「個人学習」、「集団学習」、「振り返り」を設定して、児童の学ぶ意欲を高めた。
- 話す・聞く際の視点を活用した児童自身の振り返りを行うことで、話し方や聞き方について意識させた。

■学校の概要

学区の中央部を県道とバイパスが東西に走り、南北に広域農道が開通して交通量も多い地域に立地する中規模校である。

「まごころ教育」を学校経営の中核に据え、児童は明るく穏やかで欠席が少ない。読書が好きで、学校でも家庭でもよく読書をしている。

■取組の内容

児童は基礎的・基本的な事項はおおむね身に付けているが、既習事項と関連付けて問題を考えることや自分の考えを分かりやすく説明することが苦手な傾向がある。そこで、学力向上改善プランの具体策の一つとして、以下の視点で授業改善に取り組んでいる。

1 授業展開の工夫

授業における児童の学ぶ意欲を高めるために、次の4つの場面を設定した。

(1) 学習課題設定の場面～魅力ある学習課題～

- ・日常生活に密着した学習課題や知的好奇心を喚起する学習課題を設定する。
- ・努力すれば解決でき、複数の考え方を引き出せる発問を工夫する。

(2) 個人で学習する場面

- ・個人で考える時間を確保し、分かる喜びやできたという達成感、満足感を味わわせる。
- ・一人一人の学習状況を十分に把握し、個に応じた指導、支援を行う。

(3) 集団で学習する場面

- ・ペア、グループ、クラス全体で話し合い、自分一人では気付かなかったことに気付く、友達のよさを発見する、新しい考えをつくり出す等の活動を通して、学び合う喜びを味わわせる。

(4) 授業を振り返る場面

- ・学習活動を通して分かったこと、気付いたこと、大切だと思ったことなどを確認し、評価することで、本授業での学びを確認する。

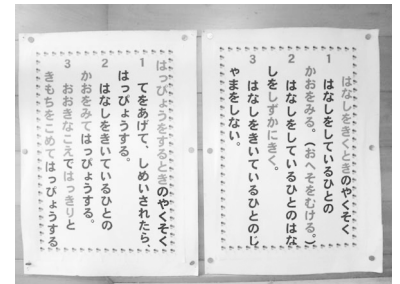
2 言語活動の充実

言語活動の充実に向け、次の(1)、(2)を中心として取り組んだ。

(1) 全教科、領域等において、意図的・計画的に体験活動を取り入れた学習を展開した。その中で、「よ

く聞き、考えを伝え合う」活動を意識的に行った。

(2) 「話す、聞く際の視点」を教室内に掲示し、各授業や活動における話し合いや発表の際に、視点を意識して話したり聞いたりするよう指導する。また、授業の振り返りの場面で、その視点に基づいて、児童自身が話し方や聞き方についても振り返ることで、話す力や聞く力の向上を図る。



「話す、聞く際の視点」

3 授業改善の検証

校内研修の一貫として、授業改善の検証を通して、教員の指導力の向上を図るため、研究授業と授業研究会を複数回実施した。



グループ活動の様子



授業研究会の様子

授業研究会では、低学年部会と高学年部会に分かれ、授業参観で気付いたよさと課題を記した付箋を基に、グループ協議を行い、改善を図ることができたか検証した。

まとめ

- ◆ 学習場面の設定を意識した授業づくり、中でも学習課題を工夫することが、児童の学習意欲の向上につながっています。
- ◆ 個人や集団で学習する場面で、児童の考えや意見を大切にすることが、児童の学びに沿った授業展開につながっています。
- ◆ 日頃から学習場面の設定や言語活動の充実等に全校体制で取り組んでいることから、授業研究会では、核心を突く意見を十分に出し合い、研修を深めることができています。

4 授業改善

事例4 【小学校】ノート指導の充実に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 学習の流れ（学習のめあてから学習の振り返りまで）や自分の考えを書くノート指導の充実を図った。
- 児童一人一人へのノート指導の充実を図ることで、子どもの学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の向上を目指した。

■学校の概要

商業地に位置する大規模校で、地域的にも安定している。地域の方々との交流やボランティア活動が盛んに行われており、全校体制で学力向上に関する研究を深めている。

第4学年は教科に関する調査では県平均を大きく上回っているが、児童質問紙では課題が見られる。第5学年では教科に関する調査では県平均並みであるが、児童質問紙では課題は少ない。

■取組の内容

1 全校での共通理解

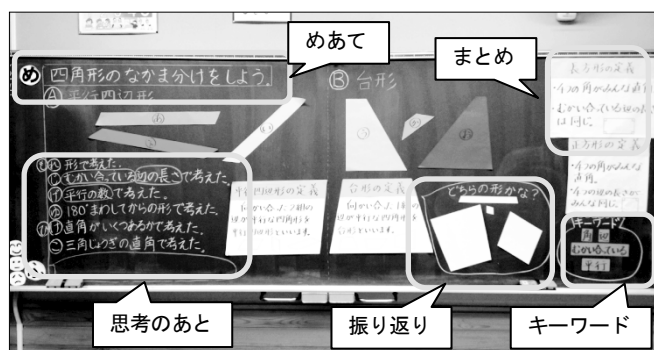
子どもの学習意欲の高揚を目指して、ノート指導の充実を図っている。学習のめあてから学習の振り返りまでの学習の流れ、そして、自分の考えが分かるノート作りを行っている。

また、具体物を操作したり実体験をしたりする活動を全ての教科に取り入れ、思考を深めさせている。これらの活動を踏まえ、根拠や理由に基づいて説明・表現する機会を設けノートに書かせることで、思考力・判断力・表現力のさらなる向上を図っている。

2 算数科でのノート指導の充実

ノート指導を充実するために、今年度から算数において書く場所や内容を決めるなど、板書の形式を統一し、構造的なものとしている。

板書の例



さらに問題解決型の授業を意識し、授業を行う際は以下の(1)～(6)を重視している。

- (1) めあての提示
- (2) 十分な自己解決の時間の確保（自分の考えをもつ）

- (3) ペアやグループでの話し合い
- (4) 一斉での練り合い
- (5) まとめ
- (6) 児童の言葉での振り返り

児童の振り返りの観点は以下のようなものである。

- ・学習意欲に関すること
- ・級友の発表に関すること
- ・本時で学んだこと
- ・発表しなかったこと

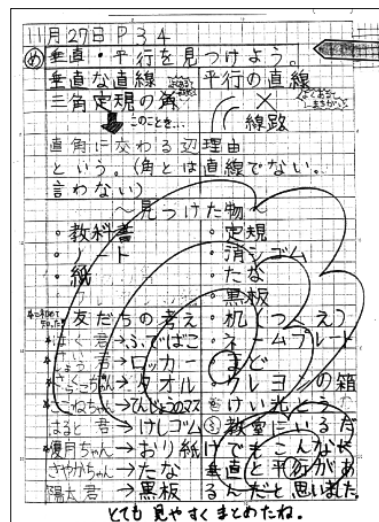
授業後に算数のノートを回収し、担任は児童の振り返りに対して、コメントを書き、児童に返却している。

ノートに思考過程がしっかりと記述してあるため、児童は自分のノートを参考に自力解決をすることができる。

3 他教科での応用

算数科での実践が、理科でも見られるようになってきている。算数のノート

の書き方を参考に、子どもたちが自主的に理科のノートの記述を工夫するようになってきた。



まとめ

- ◆ 教師の指示がなくとも、級友の素晴らしい発表などをノートに記述している児童が増えてきていることから、ノート指導の取組は学習意欲の向上に効果的であると考えられます。
- ◆ 学習の流れを書くことで思考過程を児童自身で確認できるため、思考力・判断力・表現力等の向上につながると考えられます。
- ◆ 一つの教科で重点的に取り組み、型を示すことで、他教科への応用が期待できます。

4 授業改善

事例5 「中学校」「思考力・判断力・表現力」について重点的に指導する単元一覧を作成して取り組んだ事例

■取組のポイント

- 思考力・判断力・表現力について重点的に指導する単元を位置付けるなど、年間指導計画の修正を図った。
- 修正した年間指導計画に基づき、単元計画に考える場や学び合いの場を記し、授業づくりに反映させた。
- 重点化を図った思考力・判断力・表現力に関する内容等を定期テストに反映させ、評価・改善につなげた。

■学校の概要

広大な田園が広がり、酪農農家も点在する農村地帯に位置する小規模校である。三世代同居の家庭も多く、学校には協力的である。

社会と数学が県平均を大きく上回っているほか、挨拶や片付けなどの生活習慣、家庭学習や読書への取組はおおむね良好であるが、発表する、聞くことなどには課題が見られる。

■取組の内容

この学校では、とちぎっ子学習状況調査結果の分析に基づき、年間指導計画の見直しを行った。さらに、授業改善に取り組むとともに、それらを定期テストに反映させることで、指導と評価の一体化を図ろうとしている。

1 とちぎっ子学習状況調査の分析

学習面において県平均は上回っているものの、資料の活用や思考力・判断力・表現力に関する問題に課題が見られる。

2 年間指導計画等の見直し

- (1) 各教科部会において、思考力・判断力・表現力について、重点的に指導する単元を位置付ける。【資料】
- (2) 単元計画の中に、考える場、学び合いの場を具体的に記入する。

【資料】

「思考力・判断力・表現力」について重点的に指導する単元一覧

	1 年	2 年	3 年
国 語	読解を明確にして書く (書く)	読解力のある提案をしよう (話す・聞く)	読面に応じて話そう (話す・聞く)
社 会	地理的分野 北アメリカ州 ヨーロッパ州	地理的分野 関東地方 中部地方	公民的分野 くらしと経済
数 学	「平面図形」 「空間図形」	「平行と合同」 「三角形と四角形」 「確率」	「相似な図形」 「三平方の定理」 「確本調査」
理 科	身のまわりの物質	化学変化と原子・分子	化学変化とイオン
英 語	Lesson9 Four Seasons in Japan	Lesson5 My Dream	Lesson6 I have a dream
技 術	材料と加工法 製作(木工作品)	エネルギー変換 製作(電気、機械的内容の作品)	情報 コンピュータ制御学習での プログラム作り
保健体育	武道(剣道)	武道(剣道)	武道(剣道)
音 楽	「春」 「魔王」(歌謡)	「交響曲第5番」 歌劇「アイダ」(歌謡)	交響曲「フルタ」(歌謡)

(3) 定期テストで、授業との関連を図った思考力・判断力・表現力を問う問題を意図的に出題し、適切に評価する。

(4) 評価後、生徒にフィードバックすることで、評価を生かして繰り返しの指導を行う。(フォローアップシートの活用)

3 授業改善の検証

日頃から、各教科で授業づくりを工夫し、お互いの授業を見せ合うほか、授業研究会を通して、教師の指導力(授業力)を高めている。

〔授業改善の視点～学力向上改善プランとの関連～〕

- (1) ねらいの提示と振り返りの実践
- (2) 学習課題の工夫 〔⇒提案授業 *1〕
(資料を活用して解決したり、思考力・判断力・表現力を高めたりする課題)
- (3) 発問、板書、ノート指導の工夫
- (4) 考える場・学び合いの場の設定 〔⇒提案授業 *2〕
(「一人学び」⇒ペア・グループ学習)
- (5) 教師の表情、口調、励ましや賞賛などの個に応じた言葉かけの工夫

〔提案授業〕

- (1) 実 施 日 11月18日
- (2) 学年・教科 1年・数学
- (3) 単 元 名 平面図形
- (4) 本授業における学力向上改善プランとの関連
 - ① 平面図形の導入において、折り紙を利用した操作的活動を通して、数学的に図形の移動を見い出したり、視覚的に図形の性質を理解したりできるようにさせる。[*1]
 - ② 小集団での学び合いを大切にするため、その前段階である「一人学び」の時間を充実させる。[*2]

まとめ

- ◆ 調査結果の分析に基づき、年間指導計画を見直し、重点的に指導する単元を位置付けることで、指導方法等の情報を共有しながら学校全体で授業改善に取り組むことができます。
- ◆ 定期テストの中に、授業で取り扱った思考力・判断力・表現力を問う問題を意識的に取り入れることで、指導と評価の一体化が図られ、指導の改善につながっています。

4 授業改善

事例6 【中学校】難易度の高い課題に挑戦しようとする意欲の向上に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 生徒の理解や習熟の程度を考慮した指導として、適切な難易度のある課題を設定した。
- 生徒一人一人の学力を向上させることを目指し、話し合い活動を重視した授業を行った。

■学校の概要

郊外にある中規模校である。基礎的・基本的な内容の定着を図り成果を上げている。難易度の高い課題に挑戦しようとする意欲を高めることが課題である。また、生徒の表現力を高める学習活動を充実させたいと考え指導に当たっている。

■取組の内容

適切な難易度のある課題の解決を通して生徒一人一人の学力を向上させることを目指し、以下の取組を行った。

1 思考力・判断力・表現力を育成する展開の工夫

生徒の問題解決力を高めるため、習得的な学習だけでなく、生徒自らが探究する学習をできるだけ取り入れるよう指導過程を工夫する取組を、各教科で行った。

2 適切な難易度のある課題の設定

適切な難易度のある課題を設定することで、比較的学力の高い生徒も意欲的に学習に取り組むことができる。このような課題を全ての生徒が解決できるようにするためには、生徒の習熟や理解の程度に応じたきめ細かな指導が必要である。一方、今までも重視してきた基礎・基本を重視した学習の過程も大切にしたいと考えた。

3 話し合い活動の充実

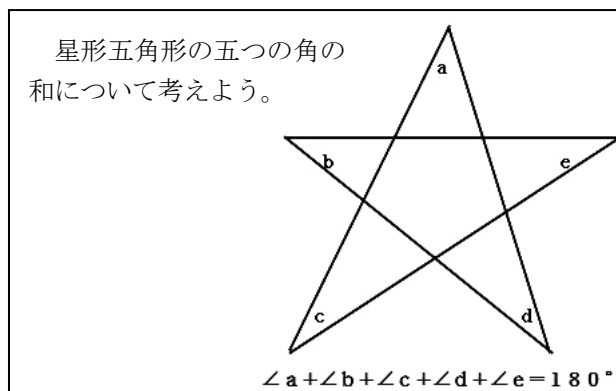
少人数（4名程度）のグループ学習を適宜取り入れた。このことで、自力で考えた内容について話し合い、学び合うことができる。自分の考えを分かりやすく説明する力を育むとともに、苦手とする生徒が問題の解決につながる考えに気付いたり、理解を深めたりできると考えた。

4 指導事例 【数学科 第2学年】

中学校第2学年数学科の授業において、星形五角形の五つの角の和を求めさせる学習課題を設定した。これは、様々な視点で条件を検討しなければ答えが出ない難易度の高い課題である。この課題を解決するため、全ての生徒に基礎的・基本的な知識・技能を再確認させた後、その知識・技能を活用して思考・判断・表現させるとともに、多様な考え方を生かして課題を解決することができるよう授業を組み立てることとした。

生徒の実態から、自力による解決では多くの生徒は課題解決に至らないことが予想されることから、以下

のように指導過程を工夫した。



(1) グループによる話し合い

既習の内容である三角形や平行線などの性質をまとめたヒントカードを活用し、個人で課題解決に取り組んだ。しかし、解決法が見い出せている生徒は非常に少なかった。そこで小グループで、解決法を考え付いた生徒が解決のヒントを伝えたり、教師が各グループを個別に指導したりすることで、全ての生徒に解決法が見い出せるようにした。

(2) 発表の内容、方法をグループで検討

自分たちのグループで出された解決法を、他のグループに伝えるための内容、表現方法を検討した。自力解決が難しかった生徒がどこでつまづいていたかなどの意見を取り入れるなどして、分かりやすい発表となるよう指導した。

(3) 課題の解決法を発表

発表時は、他のグループと自分たちの解決法の視点の違いに着目するよう指導した。発表では、多様な考えやアイディアが出され、発表を聞く生徒たちからは知的な驚きや感嘆の声が上がり、感動ある授業となった。発表した生徒も、難しい課題に挑戦し解決できたことに成就感を得ていた。

まとめ

- ◆ 複数の知識・技能を関連付けて解決を図る必要がある問題など、難易度の高い課題を、いつ、どのような場面で提示するか、話し合い活動で教師はどのような役割を果たすべきかなどを、生徒の実態を踏まえ検討することが大切です。
- ◆ 思考力・判断力・表現力を育てるためには、全教員が同一歩調で実践することが重要です。

4 授業改善

事例7 「中学校」生徒質問紙で課題のあった項目を意識し、授業改善に取り組んだ事例

■取組のポイント

- 生徒質問紙で課題のあった項目の克服を意識した研究授業を実践した。
- 指導力の向上を目指し、教科の枠を超えて少人数でKJ法的手法による授業研究会を行った。
- 校長の強いリーダーシップの下で授業改善に取り組んだ。

■学校の概要

農村部に位置している中規模校で、文武両道を実践し、小中連携の充実にも取り組んでいる。教科に関する調査では、理科の平均正答率は県平均を大きく上回っており、他の教科は県平均程度である。生徒質問紙では肯定的な回答が目立つ。

また、「授業改善なくして学力向上なし」として、校長が強いリーダーシップを発揮している。

■取組の内容

1 全校での共通理解

この学校では、秋田県などの先進的な取組のよさを、校長はじめ多くの教員が収集・検討し、できることから日々の教育実践に取り入れようとしている。「何を学習するか」の明確化、学ぶ意欲の向上を目指す課題の工夫、自分で考える時間の十分な確保、教師の発問の工夫、つぶやき・表情を見逃さずに笑顔で生徒に接することなどの取組を全校体制で常実践している。

生徒が自己有用感や自信をもって発表できるようにするため、一人一人の生徒を大切にしたい指導を行っている。例えば、しっかりと自分の考えをもたせたり、ペア学習・グループ学習での話し合いを充実させたり、スモールステップのワークシート等を活用し達成感を味わわせたりしている。



2 校内授業研究会

(1) 研究授業

生徒質問紙で課題のある教科を中心に、授業参観の視点を明確にした研究授業を行っている。参観の視点は、当該学年所属の教員が学級の実態を分析して決定する。

「学習に関するアンケート」・「ふだん思っていることに関するアンケート」(自己有用感)の分析 (2年)

	(よい面・強み)	(課題・弱み)
見	意欲は高い 引き出して伸ばしてあげたい	どうせダメなものはマイクスの 発言、空気をなくしていく。 がんばり伸びていく雰囲気 づくりが必要。
教	発言を認めてもらえる。 自信をもって発言する雰囲気 は、がんばり学んで学べる。	自信をもって発言できない。
育	学	有能さへの欲求が高いが 有能感が低い。 基礎基本を身につけ、伸ばす 必要がある。
育	育	

参観者は、焦点化が図られた参観の視点に基づき、一人一人の生徒を観察する。

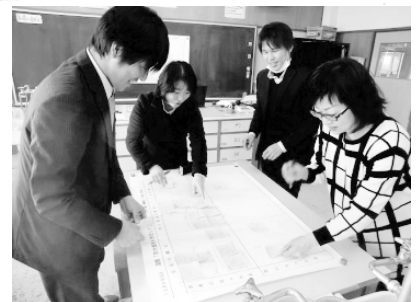
(2) 授業研究会

授業研究会は本年度から年3回、教科の枠を超え、学年ごとに行っている。KJ法的手法を用いて数人で効果的に取り組んでいる。研修内容の統一を図るために、研修資料を作成し、その内容に沿って研修を進めている。

【研修計画 抜粋】

内容	時間/形態	概要及び留意点	資料
1 研修の目的と方法の確認	2分/全体	初めての研修方法である場合、レジュメを使って説明を聞く。	・説明用レジュメ
2 授業者の反省	5分/全体	反省を聞くことに加え、授業の観点及び学ぶ意欲の視点を確認する。	
3 各自が改善策等を付箋に記入	3分/個人	一人1項目について、抽象的な表現は避け、具体的な内容を記述する。	・付箋(ピンク)
4 ワークショップ	30分/班	1 授業の観点について ① 参考になった点が書かれたブルーの付箋を出して話し合う。 ② 気になった点が書かれたブルーの付箋を出して話し合う。 ③ 助言や改善策が書かれたピンクの付箋を出して話し合う。 2 学ぶ意欲の視点について 上記の①、②、③を行う。 ※類似・関連した付箋はその都度出し合い整理し、グループごとに小見出しを付け、関連するものを線で結んで構造化を図る。	・模造紙 ・水性マーカー
5 研修成果の確認	10分/全体	各班が、ワークショップで出された主な話題を発表し、必要に応じて質疑を行う。	
6 振り返り	5分/個人	学んだことを各自が振り返り、シートや付箋等に記入する。	・振り返りシート

時間を有効に使い、互いに発表し合うことを大切に、教師の指導力の向上・学業指導の充実を図ろうとしている。



まとめ

- ◆ 視点を明確にして授業を参観することにより、授業研究会の際、協議内容を絞ることができるので、効率的に協議することができます。
- ◆ 教科の枠を超えて授業研究会を実施することにより、どの教科にも共通する授業改善のポイントが明らかになります。具体的な個別の取組を一般化する際にKJ法的手法は有効です。

〔調査結果分析シート〕

調査結果の分析は、指導の改善策を効果的に実行するために欠かせないものです。派遣指定校に学力向上アドバイザーが提供した分析資料の例を紹介します。

4年生				5年生					
問題番号	学校	県	分析1	分析2	問題番号	学校	県	分析1	分析2
家庭での学習	1	66.6	64.7		家庭での学習	1	73.2	67.3	
	2	96.0	95.7			2	100.0	97.3	
	3	57.8	54.2			3	70.1	54.1	強み
	4	67.2	59.0			4	85.9	62.2	強み
	5	77.1	61.6	強み		5	86.8	61.5	強み
	6	55.4	59.0			6	59.1	61.0	
	7	71.2	64.8			7	66.0	64.8	
	8	0.0	0.0			8	0.0	0.0	
	9	0.0	0.0			9	0.0	0.0	
読書	10	0.0	0.0		読書	10	0.0	0.0	
宿題	11	0.0	0.0		宿題	11	0.0	0.0	
意欲	12	0.0	0.0		意欲	12	0.0	0.0	
	13	76.5	66.7			13	66.1	63.6	
	14	98.8	93.9			14	100.0	94.5	
	15	88.6	83.5			15	93.0	83.9	
	16	81.8	81.8			16	80.2	84.5	
	17	52.3	40.4	強み		17	55.1	47.4	
	18	54.5	57.1			18	55.8	53.5	
	19	84.1	82.2			19	91.1	83.3	
	20	79.5	70.1			20	80.3	71.7	
学校での様子	21	81.8	69.8	強み	学校での様子	21	93.2	71.3	強み
	22	93.2	73.7	強み		22	90.9	76.7	強み
	23	79.5	78.5			23	81.2	80.0	
	24	93.2	82.7	強み		24	95.2	86.7	
	25	72.7	70.7			25	88.4	73.5	強み
	26	97.7	88.6			26	95.3	90.6	
	27	88.6	77.8	強み		27	88.4	76.3	強み
	28	77.3	51.6	強み		28	62.8	49.5	強み
	29	97.7	91.5			29	97.7	93.1	
家での生活	30	90.9	80.8	強み	家での生活	30	93.0	80.8	強み
	31	77.3	73.4			31	94.0	72.8	強み
	32	93.2	88.5			32	95.3	89.6	
	33	54.5	53.0			33	67.4	51.4	強み
	34	56.0	66.1	課題		34	51.2	67.8	課題
	35	93.2	94.9			35	97.7	96.1	
	36	72.7	77.3			36	79.1	76.4	
	37	84.1	74.8			37	90.7	77.2	強み
	38	95.5	89.7			38	93.0	91.9	
自分自身のこと	39	97.7	95.0		自分自身のこと	39	93.0	97.1	
	40	71.0	81.4	課題		40	88.4	84.3	
	41	0.0	0.0			41	0.0	0.0	
	42	0.0	0.0			42	0.0	0.0	
	43	0.0	0.0			43	0.0	0.0	
	44	31.8	25.8			44	30.2	28.7	
	45	0.0	0.0			45	0.0	0.0	
	46	50.0	57.3			46	84.6	63.9	強み
	47	97.7	92.1			47	95.3	94.0	
家族のこと	48	77.3	79.5		家族のこと	48	93.0	79.1	強み
	49	79.5	79.0			49	81.4	77.9	
	50	77.3	64.2	強み		50	67.4	60.2	
	51	77.3	76.8			51	88.4	76.8	強み
	52	93.2	92.6			52	93.0	93.9	
	53	90.9	84.9			53	100.0	86.8	強み
	54	97.7	89.8			54	95.3	90.0	
	55	97.7	95.5			55	100.0	96.4	
	56	90.9	87.6			56	95.3	91.5	
57	90.9	88.7		57	93.0	91.3			
58	97.7	90.6		58	93.0	91.8			
59	90.9	83.2		59	97.7	85.5	強み		
60	72.7	65.5		60	67.4	67.0			
61	84.1	80.3		61	93.0	81.2	強み		
62	95.5	79.8	強み	62	93.0	80.1	強み		
63	97.7	91.8		63	95.3	92.6			

以下、社会のこと、各教科に関する質問項目が続きます。

本資料は、網掛け部分に「とちぎっ子学習状況調査」のデータCDに収録された一部のデータをコピー＆ペーストすることで、自校の強み、課題を把握することができる表計算シートです。

なお、平成27年度はこのシートを全校で活用していただけるよう、7月上旬までに平成27年度調査に対応した表計算シートを県教育委員会のホームページに掲載する予定です。

原因追及チャート〈〇〇小学校〉〈〇年〇組〉

— 26 —

平成26年度学力向上アドバイザー

渡邊 清

川村 滋

綱川 淨恵

戸田 信之

岡村 静幸

渡邊 久芳

新村 純一

青木 勇樹

小堀 良一

星 成雄

平成26年度学力向上アドバイザー派遣事業

学力向上実践事例集

-検証改善サイクルの確実な運用を目指して-

発行 平成27年3月

栃木県教育委員会事務局学校教育課 学力向上推進室

〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田 1-1-20

TEL : 028-623-3367 FAX : 026-623-3361